

カスタム機能説明書

リアルタイムデータ（メディアファイル）

(Nomoad Version 3.60 カスタム版)

このカスタム機能は、パソコン上のローカルディスクや、ネットワーク上の共有フォルダ、または Web サーバー上にあるメディアファイルやメディア参照ファイルの更新を定期的にチェックし、表示中の画像や動画・音声・PDF データを更新する機能です。この機能を使用して画像や動画、音声、PDF データをリアルタイムに更新するプレゼンテーションを作成できます。

応用例

- ネットワークや Web 上の最新の画像を表示。
- 外部のプログラムを利用して現在の発電量グラフなどの画像情報を表示。

注意

- Web 上のファイルを指定する場合、サーバーへの負荷を下げるために更新インターバル時間を 60 秒以上に設定してください。また、サイズの大きなファイルを指定しないでください。

目次

メディアファイル・メディア参照ファイルについて.....	2
データタグについて.....	5
メディア部品でデータタグを使用する.....	12
設定されたデータタグの内容を確認する.....	13
リアルタイムデータ表示更新の設定.....	14
リアルタイムデータ読み込みログの表示.....	16

メディアファイル・メディア参照ファイルについて

リアルタイムデータ（メディアファイル）機能で利用できるメディアファイル・メディア参照ファイルは下のようなデータです。

●メディアファイル

メディアファイルを直接指定したり、メディア参照ファイルからパスを指定できます。

- 画像ファイル（.bmp .jpg .jpeg .jpe .png .tif .tiff .gif .nabri[独自ファイル形式]）※1 ※2
- 動画ファイル（.wmv .avi .mov .mp4 .3gp .3g2 .mpg .mpeg .asf .qt .vob）※3 ※4
- 音声ファイル（.wma .wav .mp3 .m4a .aac .mid）※4
- PDF ファイル（.pdf）

※1 .png ファイルのアルファ値による透過に対応しています。

※2 .gif ファイルのアニメーションには対応していません。

※3 動画ファイルの種類によっては別途コーデックが必要となる場合があります。

※4 著作権が保護されたファイルは再生できません。

メディアファイルの更新タイミングについて

（1）リアルタイムデータタグでメディアファイルのパスを直接指定した場合は、メディアファイルが更新されたときに、自動的に新しいメディアファイルが読み込まれ 表示に反映されます。

（2）メディア参照ファイルからメディアファイルのパスを記述した場合は、メディア参照ファイルが更新されたときに、自動的に新しいメディアファイルが読み込まれ、表示に反映されます。

※（2）の場合、メディアファイルが読み込まれるタイミングは、メディア参照ファイルが更新されたとき、または、更新されなくても上書き保存されたときです。メディアファイルを更新しただけでは表示は更新されません。

●メディア参照ファイル

メディアファイルのパスを記述するファイルです。

- [CSV ファイル] ファイル内の各フィールドにメディアファイルのパスを記述
- [XML ファイル] ファイル内の data タグのテキストにメディアファイルのパスを記述
- [テキストファイル] ファイル内にメディアファイルのパスを記述

※メディア参照ファイルの内容、フォーマットについては、それぞれのカスタム機能の説明書をお読みください。

メディア参照ファイルには、使用するメディアファイルのパスをとして記述します（CSV ファイルではフィールドとして、XML ファイルでは data タグのテキストとして）。

メディア参照ファイルに記述できるメディアファイルのパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web 上のファイルの URL です。

例：“D:¥Media¥Movie.wmv”（ローカルフォルダの絶対パス）

例：“¥¥ServerPC¥Share¥Media¥Movie.wmv”（共有フォルダの絶対パス）

例：“Media¥Movie.wmv”または“¥Media¥Movie.wmv”または
“Media/Movie.wmv”または“.Media/Movie.wmv”（相対パス）

例：“https://www.example.com/Media/Movie.wmv”（URL）

また、メディア参照ファイルに記述するメディアファイルの相対パスは、メディア参照ファイルのパスが基準となります。

さらにメディアファイルのパスがWeb上のファイルのときは、メディアファイルをダウンロードするときの認証IDを記述できます。

例：“http://example.com/MediaData/Gazou1.jpg”, “Web01”

（メディアファイルのURL、Web 認証識別IDは“Web01”を指定）

認証IDの設定は、Nomoad、NomoadPRでパソコンごとに別途行います。【P15】を参照してください。

リアルタイムデータ（メディアファイル・メディア参照ファイル）更新時の注意

- 編集したファイルを保存する際、ファイルを保存する間隔を数秒以上あけてください。変更内容が表示に反映されない場合があります。
- 編集したファイルを保存する際、稀に保存に失敗することがあります。その場合は時間を置いて再度保存をリトライしてください。

外部プログラムの作成者の方へ

- 外部のプログラムを使用して、ローカルディスクやネットワークの共有フォルダへリアルタイムデータファイル（メディアファイル・メディア参照ファイル）を保存したり更新するときは、不完全なデータの読み込みを防止するために、ファイルのロックを行ってください。ロックを行うには、ファイル共有モードを排他指定（*FileShare.None* や、*dwShareMode:0*）でファイルをオープンし、保存します。

ローカルディスクや、ネットワーク上の共有フォルダにファイルを置く場合の注意

- リアルタイムデータファイル（メディアファイル・メディア参照ファイル）を書き込むソフトや環境によっては、ファイルがロックされず、更新途中の不完全なデータを読み込んで表示してしまう場合があります。その場合は、MD5 ハッシュファイルを置き、リアルタイムデータファイルの更新のたびに MD5 ハッシュファイルを更新することをお勧めします。MD5 ハッシュファイルについては下記「MD5 ハッシュファイルについて」を参照してください。

Web 上にファイルを置く場合の注意

- Web 上にリアルタイムデータファイル（メディアファイル・メディア参照ファイル）を置く場合、不完全なデータの読み込みを防止するために、MD5 ハッシュファイルを置き、リアルタイムデータファイルの更新のたびに MD5 ハッシュファイルを更新することをお勧めします。MD5 ハッシュファイルは下記「MD5 ハッシュファイルについて」を参照してください。
- FTP ソフト等を用いてリアルタイムデータファイル（メディアファイル・メディア参照ファイル）をアップロードする場合、バイナリーモードでアップロードしてください。アスキーモードでアップロードした場合、アップロードしたリアルタイムデータファイルが変化してしまう場合があります。

MD5 ハッシュファイルについて

- MD5 ハッシュファイルを使用する場合は、「XXXX.yyy.md5.txt」という名前（XXXX.yyy は対象のリアルタイムデータファイル名）をつけ、更新後のリアルタイムデータファイルの MD5 ハッシュ（16 進数 32 桁）を ASCII 形式のテキストで記述し、リアルタイムデータファイルと同じ場所に保存します。MD5 ハッシュファイルは置くだけで機能しますので、使用しないときは削除してください。

データタグについて

リアルタイムデータ（メディアファイル）機能を使用するには、下記のデータタグを記述します。タグの記述場所はP12「メディア部品でデータタグを使用する」を参照してください。

● メディアファイルを直接指定する

メディアファイルのパスを直接指定するためには下のいずれかのデータタグを記述します。

<%EX_MEDIAPATH, "メディアファイルパス">

①

②

<%EX_MEDIAPATH, "メディアファイルパス", "Web認証識別ID", 更新優先度>

③

④

①データタグのヘッダー

メディアファイルを直接指定するための記述です。

②読み込むメディアファイルのパス

使用できるパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web上のファイルのURLです。

例： "D:¥Movie. wmv"（ローカルフォルダの絶対パス）

例： "¥¥ServerPC¥Share¥Movie. wmv"（共有フォルダの絶対パス）

例： "folder¥Movie. wmv"または ". ¥folder¥Movie. wmv"または
"folder/Movie. wmv"または ". /folder/Movie. wmv"（相対パス）

例： "https://www. example. com/folder/Movie. wmv"（URL）

相対パスは、

（１）表示パソコンでNomoadPRで表示しているときはプレゼンテーションファイルからのパス

（２）編集パソコンでNomoadを使用してプレビューするときはプロジェクトファイルからのパスが基準となります。

③Web 認証識別ID

②でWeb上のURLを指定した場合、メディアファイルをダウンロードするときの認証IDを記述します。認証IDの設定は、Nomoad、NomoadPRでパソコンごとに別途行います。【P15】を参照してください。

記述しない場合は、認証を行いません。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、認証を行いません。

④更新優先度

表示の更新優先度を記述できます。“1”(通常)または“2”(優先)を指定できます。

記述しない場合は、更新優先度は“1”(通常)として動作します。

タグの記述例1： <%EX_MEDIAPATH, “¥¥ServerPC¥Share¥Movie.wmv”>

共有フォルダ上の動画ファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Movie.wmv」を指定しています。

タグの記述例2： <%EX_MEDIAPATH, “http://example.com/Movie.wmv”, “Web01”, “2”>

Web上の動画ファイル「http://example.com/Movie.wmv」を指定しています。また、Web認証識別IDは、“Web01”を指定しています。更新優先度は“2”(優先)を指定しています。

●メディア参照ファイルでメディアファイルを指定する

メディアファイルのパスをメディア参照ファイルから指定するためには下のいずれかのデータタグを使用します。

◎CSVファイルでメディアファイルの参照を行う場合のタグ

<%EX_MEDIAREF_CSV, “リアルタイムデータIDまたはCSVファイルパス”, 列番号, 行番号>					
①	②	③	④		
<%EX_MEDIAREF_CSV, “CSVファイルパス”, 列番号, 行番号, 文字エンコード, “Web認証識別ID”, 更新優先度>					
⑤				⑥	⑦

①データタグのヘッダー

CSVファイルを使用してメディアファイルのパスを参照するための記述です。

②CSVファイルとして登録されたリアルタイムデータIDまたはCSVファイルのパス

CSVファイルとして登録されたリアルタイムデータID（カスタム機能説明書[リアルタイムデータ（CSVファイル）]を参照）またはCSVファイルのパスを記述します。CSVファイルのパスを記述する場合、記述できるCSVファイルのパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web上のファイルのURLです。

例： “*c_test”（CSVファイルとして登録されたリアルタイムデータID）

例： “D:¥Test.csv”（ローカルフォルダの絶対パス）

例： “¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv”（共有フォルダの絶対パス）

例： “folder¥Test.csv”または “. ¥folder¥Test.csv”または
“folder/Test.csv”または “./folder/Test.csv”（相対パス）

例： *"https://www.example.com/folder/Test.csv"* (URL)

相対パスは、

- (1) 表示パソコンで NomoadPR で表示しているときは プレゼンテーションファイルからのパス
 - (2) 編集パソコンで Nomoad を使用してプレビューするときは プロジェクトファイルからのパス
- が基準となります。

③列番号

CSV ファイルの中のメディアファイルのパスが記述されているデータの列番号です。1 から始まる数値です。

④行番号

CSV ファイルの中のメディアファイルのパスが記述されているデータの行番号です。1 から始まる数値です。

⑤文字エンコード

CSV ファイルを読み込むときの文字エンコードの種類を記述します。

"SHIFT_JIS" (SHIFT-JIS)、*"UTF8"* (UTF-8) または *"AUTO"* (自動選択)

記述しない場合は、*"AUTO"* (自動選択) として読み込まれます。

正しい指定を行わないと CSV ファイルを正しく読み込めない場合があります。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、*"AUTO"* (自動選択) として読み込まれます。

⑥ Web 認証識別 ID

②で Web 上の URL を指定した場合、CSV ファイルをダウンロードするときの認証 ID を記述します。認証 ID の設定は、Nomoad、NomoadPR でパソコンごとに別途行います。【P15】を参照してください。

記述しない場合は、認証を行いません。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、認証を行いません。

⑦更新優先度

②で CSV ファイルパスを指定した場合、表示の更新優先度を記述できます。*"1"* (通常) または *"2"* (優先) を指定できます。

記述しない場合は、更新優先度は *"1"* (通常) として動作します。

タグの記述例 1： *<%EX_MEDIAREF_CSV , "c_test", 3, 5 >*

リアルタイムデータ ID *"c_test"* として登録された CSV ファイルの 3 列目、5 行目のデータ (メディアファイルのパス) を指定しています。

タグの記述例 2: <%EX_MEDIAREF_CSV, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv”, 3, 5 >

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv」の3列目、5行目のデータ（メディアファイルのパス）を指定しています。

タグの記述例 3: <%EX_MEDIAREF_CSV, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv”, 3, 5, UTF8, “”, “2” >

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv」の3列目、5行目のデータ（メディアファイルのパス）を指定しています。また、CSV ファイルを読み込むときのエンコードを UTF8 に指定しています。更新優先度は “2” (優先) を指定しています。

タグの記述例 4: <%EX_MEDIAREF_CSV, “http://www.example.com/Test.csv”, 3, 5, , “Web01”, “” >

Web 上のファイル「http://www.example.com/Test.csv」の3列目、5行目のデータ（メディアファイルのパス）を指定しています。また、CSV ファイルを読み込むときのエンコードは指定なし（自動選択）、Web 認証識別 ID は、“Web01”を指定しています。

◎XML ファイルでメディアファイルの参照を行う場合のタグ

<%EX_MEDIAREF_XML, “リアルタイムデータIDまたはXMLファイルパス”, “データインデックス”>			
①	②	③	
<%EX_MEDIAREF_XML, “XMLファイルパス”, “データインデックス”, Web認証識別ID, 更新優先度>			
④			⑤

①データタグのヘッダー

XML ファイルを使用してメディアファイルのパスを参照するための記述です。

②XML ファイルとして登録されたリアルタイムデータ ID または XML ファイルのパス

XML ファイルとして登録されたリアルタイムデータ ID（カスタム機能説明書[リアルタイムデータ（CSV ファイル）]を参照）を参照）または XML ファイルのパスを記述します。XML ファイルのパスを記述する場合、記述できる XML ファイルのパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web 上のファイルの URL です。

例: “*c_test” (XML ファイルとして登録されたリアルタイムデータ ID)

例: “D:¥Test.xml” (ローカルフォルダの絶対パス)

例: “¥¥ServerPC¥Share¥Test.xml” (共有フォルダの絶対パス)

例: “folder¥Test.xml”または “. ¥folder¥Test.xml”または
“folder/Test.xml”または “./folder/Test.xml” (相対パス)

例: “https://www.example.com/folder/Test.xml” (URL)

相対パスは、

- (1) 表示パソコンで NomoadPR で表示しているときは プレゼンテーションファイルからのパス
 - (2) 編集パソコンで Nomoad を使用してプレビューするときは プロジェクトファイルからのパス
- が基準となります。

③XML ファイル内のデータインデックス

XML ファイル内のメディアファイルのパスが記述されているデータを指定するためのインデックス (<data>タグの属性「index」の値) を指定します。

④Web 認証識別 ID

②で Web 上の URL を指定した場合、XML ファイルをダウンロードするときの認証 ID を記述します。認証 ID の設定は、Nomoad、NomoadPR でパソコンごとに別途行います。【P15】を参照してください。

記述しない場合は、認証を行いません。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、認証を行いません。

⑤更新優先度

②で XML ファイルパスを指定した場合、表示の更新優先度を記述できます。“1”(通常)または“2”(優先)を指定できます。

記述しない場合は、更新優先度は“1”(通常)として動作します。

タグの記述例 1 : <%EX_MEDIAREF_XML, “*c_test”, “gazou1”>

リアルタイムデータ ID “*c_test”として登録された XML ファイルデータインデックスが “gazou1” のデータ (メディアファイルのパス) を指定しています。

タグの記述例 2 : <%EX_MEDIAREF_XML, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.xml”, “gazou1” >

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.xml」のデータインデックスが “gazou1” のデータ (メディアファイルのパス) を指定しています。

タグの記述例 3 : <%EX_MEDIAREF_XML, “http://www.example.com/Test.xml”, “gazou1”, “Web01”, “2” >

Web 上のファイル「http://www.example.com/Test.xml」のデータインデックスが “gazou1” のデータ (メディアファイルのパス) を指定しています。また、XML ファイルを読み込むときの Web 認証識別 ID は、“Web01”を指定しています。更新優先度は “2”(優先)を指定しています。

◎テキストファイルでメディアファイルの参照を行う場合のタグ

<%EX_MEDIAREF_TEXT, "テキストファイルパス">				
①		②		
<%EX_MEDIAREF_TEXT, "テキストファイルパス", 文字エンコード, "Web認証識別ID", 更新優先度>				
		③	④	⑤

①データタグのヘッダー

テキストファイルを使用してメディアファイルのパスを参照するための記述です。

②読み込むテキストファイルのパス

使用できるパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web上のファイルのURLです。

例： *"D:¥Test. txt"*（ローカルフォルダの絶対パス）

例： *"¥¥ServerPC¥Share¥Test. txt"*（共有フォルダの絶対パス）

例： *"folder¥Test. txt"*または *". ¥folder¥Test. txt"*または
*"folder/Test. txt"*または *". /folder/Test. txt"*（相対パス）

例： *"https://www. example. com/folder/Test. txt"*（URL）

相対パスは、

（１）表示パソコンでNomoadPRで表示しているときはプレゼンテーションファイルからのパス

（２）編集パソコンでNomoadを使用してプレビューするときはプロジェクトファイルからのパスが基準となります。

③文字エンコード

テキストファイルを読み込むときの文字エンコードの種類を記述します。

"SHIFT_JIS"（SHIFT-JIS）、*"UTF8"*（UTF-8）または*"AUTO"*（自動選択）

記述しない場合は、*"AUTO"*（自動選択）として読み込まれます。

正しい指定を行わないとメディアファイルのパスが正しく読み込まれない場合があります。

また、他タグにて同一のテキストファイルに対し異なる指定を行った場合、*"AUTO"*（自動選択）として読み込まれます。

④Web 認証識別ID

②でWeb上のURLを指定した場合、テキストファイルをダウンロードするときの認証IDを記述します。認証IDの設定は、Nomoad、NomoadPRでパソコンごとに別途行います。【P15】を参

照してください。

記述しない場合は、認証を行いません。

また、他タグにて同一のテキストファイルに対し異なる指定を行った場合、認証を行いません。

⑤更新優先度

表示の更新優先度を記述できます。“1”(通常)または“2”(優先)を指定できます。

記述しない場合は、更新優先度は“1”(通常)として動作します。

タグの記述例 1 : `<%EX_MEDIAREF_TEXT, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.txt”>`

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.txt」内のデータ（メディアファイルのパス）を指定しています。

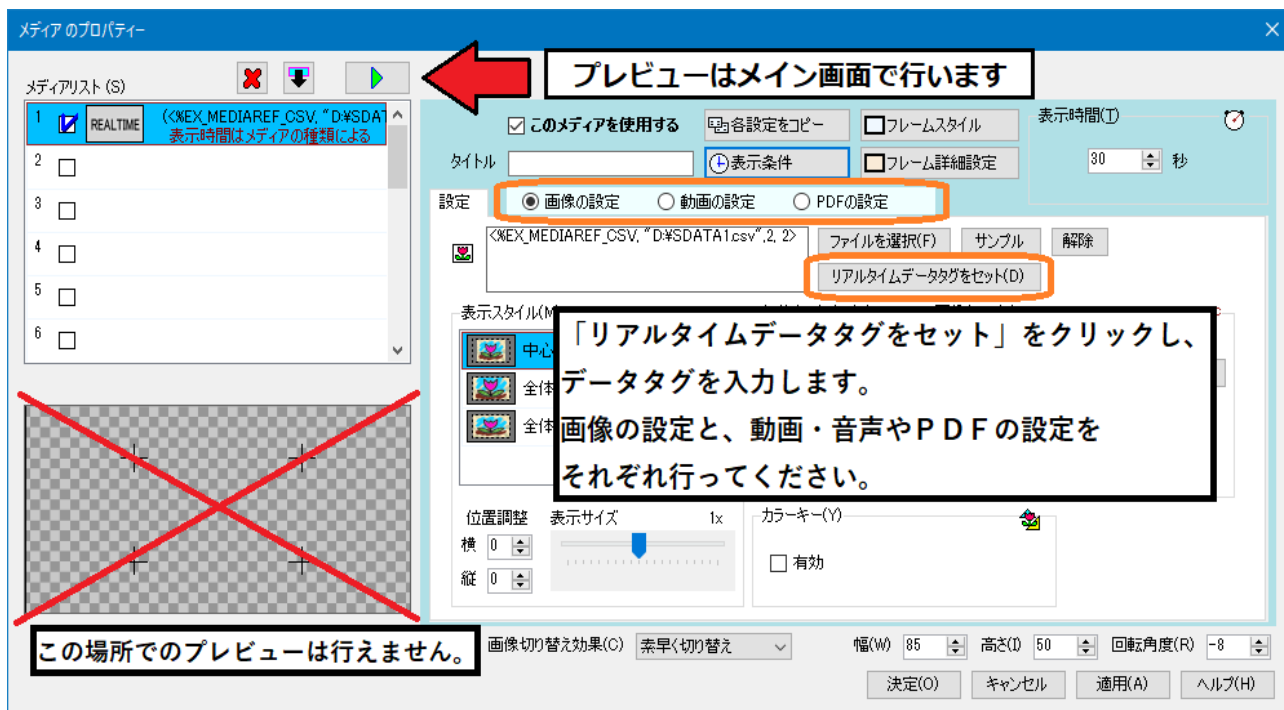
タグの記述例 2 : `<%EX_MEDIAREF_TEXT, “http://example.com/Test.txt”, UTF8 , “Web01”, “2” >`

Web 上のファイル「http://www.example.com/Test.txt」のデータ（メディアファイルのパス）を指定しています。ファイルを読み込むときのエンコードは UTF8 に指定しています。また、Web 認証識別 ID は、“Web01”を指定しています。更新優先度は“2”(優先)を指定しています。

メディア部品でデータタグを使用する

指定したメディアファイルやメディア参照ファイルで指定したメディアファイルをリアルタイムに表示に反映するプレゼンテーションを作成するには、メディア部品のプロパティ画面でデータタグを記述します。

例：メディア部品でデータタグを使用する

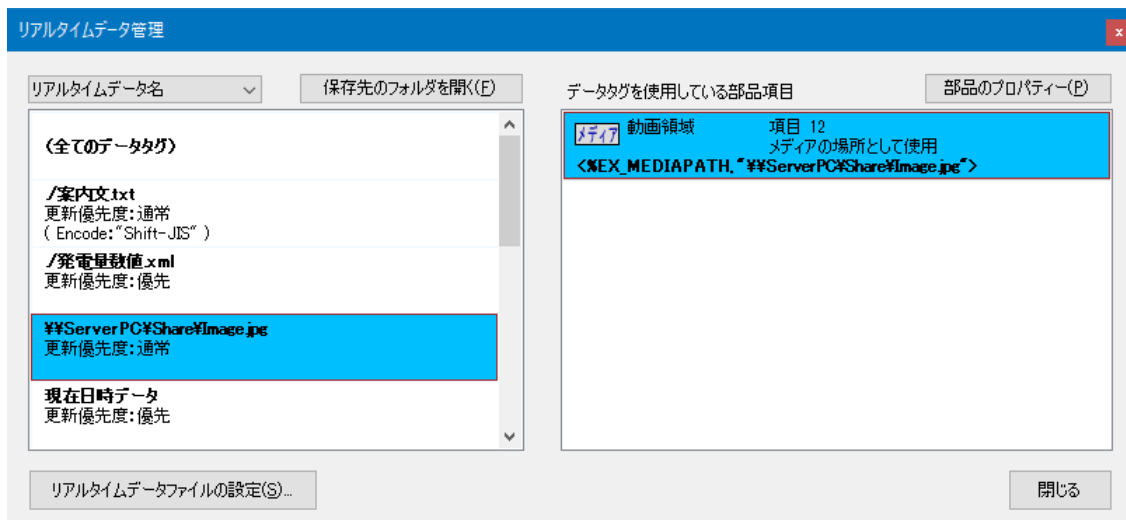


メディア部品の項目にデータタグをセットしたときは、画像の設定と動画（音声）の設定、PDF の設定をそれぞれ行うことができます。特にメディア参照ファイルを使用するときは、参照するデータに記述されたメディアファイルに画像と動画（音声）、PDF のいずれも指定可能ですので、画像の設定と動画（音声）の設定、PDF の設定をそれぞれ行ってください。

設定されたデータタグの内容を確認する

メディア部品のプロパティへ正しくデータタグを設定できたときは、「リアルタイムデータ管理」ウインドウ内にデータタグの情報が表示されます。

「リアルタイムデータ管理」ウインドウを表示するには Nomoad のメニューバーから「表示」→「リアルタイムデータ管理ウインドウ」を選択します。



リアルタイムデータ表示更新の設定

リアルタイムデータタグを使用したデータ表示更新の設定を行います。

この設定はパソコンごとに Nomoad、NomoadPR それぞれに対して行います。Nomoad での設定はプレビューのため、NomoadPR での設定はプレゼンテーションのために行います。

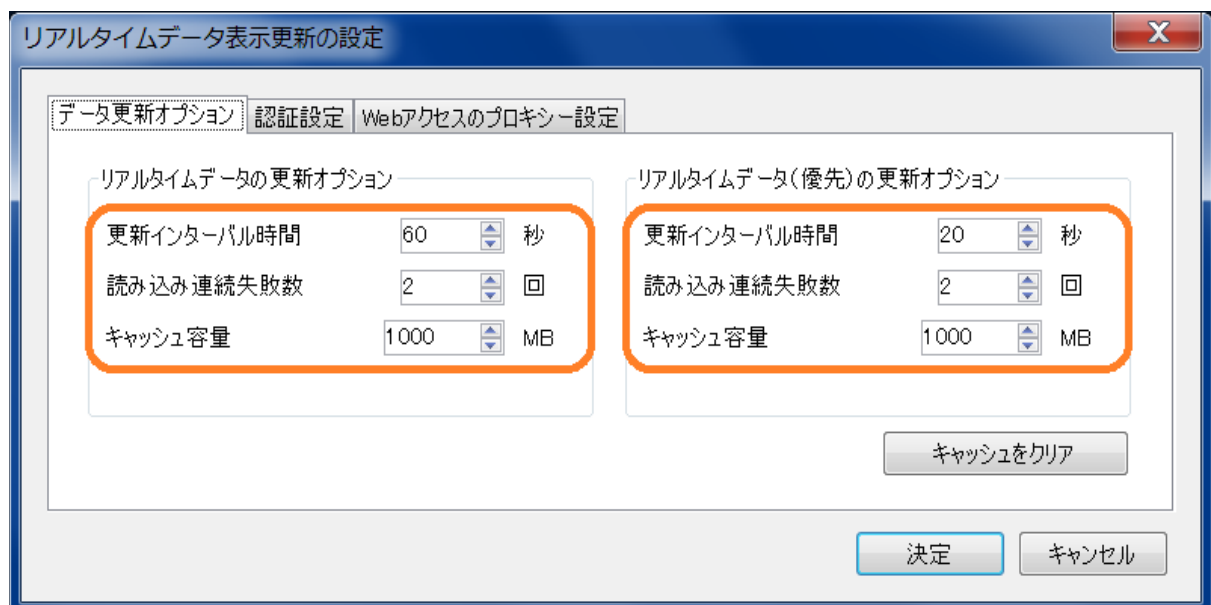
リアルタイムデータ表示更新の設定を行うには、

- Nomoad の場合はメニューから「ツール」→「リアルタイム表示更新の設定」
- NomoadPR の場合は、メニューから「設定」→「リアルタイム表示更新の設定」

をクリックします。

●データ更新オプションの設定

各データタグやリアルタイムデータの登録時に指定した更新優先度に応じた設定を行います。



• 更新インターバル時間…ファイルの更新確認の頻度を設定します。20～600 秒（優先設定では 2～300 秒）の間で指定できます。Web 上のファイルを使用する場合は、60 秒以上に設定してください。

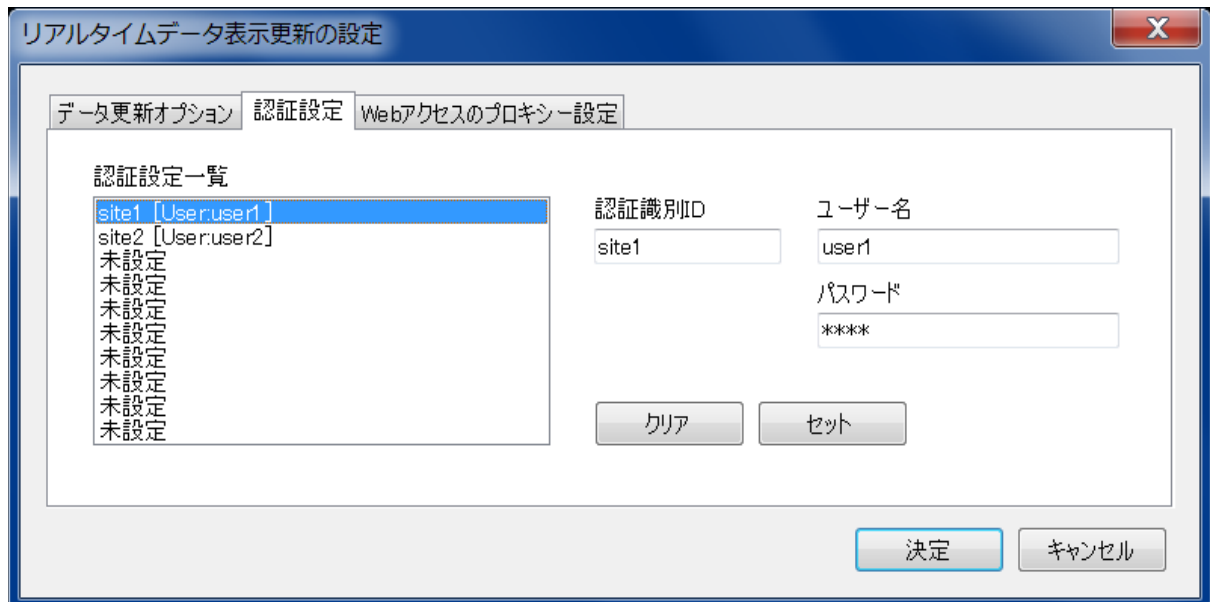
• 読み込み連続失敗数…メディアファイルやメディア参照ファイルの更新確認、読み込みへの失敗許容数です。-1 をセットすると常に失敗を許容します。設定した回数以上連続して失敗したときは、メディアの表示は行われません。（回数を-1 以外に指定した場合、メディア参照ファイルの使用時、参照されたメディアファイルの読み込みに失敗したときは指定回数に関わらずメディアの表示は行われません）

• キャッシュ容量…読み込まれたメディアファイルを一時的に保存するためのキャッシュ容量を設定します。少なすぎる場合、メディアファイルのアクセスが頻繁に起こり、ネットワーク負荷が高くなる場合があります。

• キャッシュをクリア…一時的に保存されたキャッシュをクリアします。

●認証設定

Web 上のファイルを使用するとき、認証を行う必要がある領域にアクセスする場合、ユーザー名とパスワードを設定する必要があります。認証方式は基本認証（ベーシック認証）、ダイジェスト認証に対応しています。



ユーザー名とパスワードを設定するには、

- ①一覧から設定したい認証識別 ID を選択します。
- ②新しい任意の認証識別 ID と、認証を行うためのユーザー名、パスワードを入力します。
- ③「セット」ボタンをクリックします。

ユーザー名とパスワードを削除したい時は、削除したい認証識別 ID を一覧から選択し、「クリア」ボタンをクリックします。

●Web アクセスのプロキシ設定

Web 上のファイルを使用するとき、プロキシの設定が必要となることがあります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

リアルタイムデータ読み込みログの表示

リアルタイムデータ読み込みログを表示することができます。

- Nomoad の場合はメニューから「表示」→「リアルタイムデータ読み込みログ」
 - NomoadPR の場合は、メニューから「プレゼンテーション」→「リアルタイムデータ読み込みログ」
- をクリックします。

